

ドキュメント 実録 國土館物語

榊澤春雄の
まだまだこれから
人生これから . . .

赤城山

山城赤 一長は野裾
赤城おろしは . . . 望つ風

[クリック](#)

♪♪♪♪♪ 夜の系ぐるま



1968/4/28



2016/11/3



2017/11/3

18歳と今



2015/5/15

霧わけ昇る陽を仰ぎ 梢に高き月を浴び

[クリック](#)



国士舘大学

「50年前と今」

あの日、あれから 五十年の歳月

過去を振り返ってみたいと思う気持ちは、年齢的なものから来るのでしょうか！

若き日を思い出すままに書き下ろしてみるが、何ら意図はない。

今日まで一つの事業を一貫しやってこれたのは、国士舘大学に入学し、そして何とか卒業出来た。それは、諸先輩方のお陰だ。

ぐっと踏ん張り、ジッと **辛抱 我慢 根性** を養うことを、教えてくれた皆さん、『ありがとう』。今となっては感謝です。

生まれつきの気質を変え、性格も変えてくれた国士舘。

この大学に入ってなかったら、現在の位置もなかった。



今だから語っちゃおう！！

「先輩と同期の皆さんお元気で生きてますか！」

「悔いなく生きてきましたか？」

「人生終焉ですか いやいや、まだまだ〈死ぬまでの時間つぶし〉はこれからですよ。」

過日、世田谷区役所へ出向いた。折角なので、道路を挟んで位置する、国士舘に顔を出してみた。校門を入り、目に映ったのは国士舘大学 100 周年である。私が入学し、一年後に 50 周年だった。

あれから半世紀か！と思いながら中庭を通り、柴田徳次郎先生の銅像に、ご挨拶をした。徳次郎先生の館長訓話を聴講できた最後の学年だった。講堂の階段に、腰を降ろし、一服しているうちに、様々な先輩と同期の顔が浮かんでやまなかった。



体育館の方から、体育学部の伊藤君…工学部校舎から足立先輩…「お～い、樺澤何してる！」と法学部の方から後藤先輩…校門の方から遅刻の多かった和田ちゃん…等が今にも出て来そうな錯覚に陥った。

そんな事を思い出しているうちに段々と記憶を思い起こしたくなった。当時は、本当に、ユニークな先輩と同期が在籍していた。



今となっては、顔と名前が一致しない方、顔は覚えているが、名前が浮かんでこない方など千差万別だ。

記憶が鮮明で、そして脳裏から離れない出来事。私と関わりを持って下さった身近な先輩と同期の思い出を正直に振り返り列記してみた。

～50年前の今～

先ず入学した法学部のみ 400 名近くが居る中、木刀を持って入って来た先輩が後に親しくさせて頂く、福岡県出身の後藤先輩である。

「おまえら、よく聞け…この中で文句のあるやつは、前に出ろ！」

と全員への威嚇だった。



そして入学二ヶ月の頃、自称長野県の番長と云う K だ。

「おまえは、生意気だ！」と狛江駅近くのアパートへ連れて行かれ、部屋の雨戸を閉められ、畳を裏返しにし、ヤツパ（短刀）を畳に突き刺され、木の頑丈なハンガーでリンチをくらった。

顔と頭を何回となく殴られ、ハンガーが粉々になった。それでも小田急線から山の手線へと乗り継ぎ、巣鴨のアパート迄帰り、

次の日は腫れた顔と頭で病院にも行かずに大学へ行った。

表沙汰にしなかった。大事にしなかった。こんな事で大学にしばらく群馬に帰りたくなかったし帰れなかった。



前橋駅

K先輩の事を公にして警察に被害届を提出し、受理されれば、監禁罪殺人未遂罪とする選択肢もあった。だが我慢した。辛抱した。



昔と今 巣鴨駅前

実はこの一か月程前の昼下がり、授業がまだ始まらないオリエンテーション後、巣鴨駅を降り、しばらくした所で、三人の外国人に襲われている。 **奇襲だった！**

突然、背後から両脇を抱え、堅められて『ちょっと来い！』と言われた。

「上等だ!!」と思い、誘われるまま酒屋の路地裏について行った。ここら辺は場所柄在日の外国人が多く、その大抵は、国士館の学生を目の敵にしていた。

路地裏に誘ったのは朝鮮高生たちだった。相手は3人。



路地裏に入るや否や透かさず後ろからビール瓶で殴りかかってきた。
うまく交わしたがよろけた所、右側に居たのがチョーパンを出して
来た。右頬にかすった程度だった。

揉み合ってるうちにビール瓶のケースが倒れる音を聞き付けた酒屋
のオヤジさんが

《お前ら何してる》

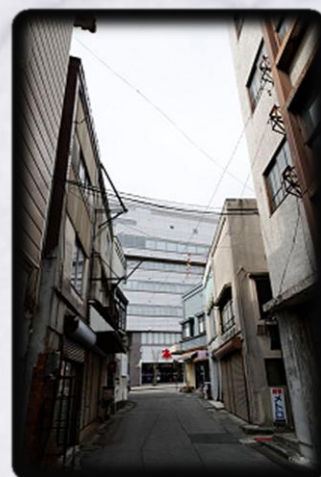
の声で人だかりができ3人は逃げて
行った。



翌日から仕返しをすべく同じ時間帯に近くを
探し回ったがとうとう見つけられなかった。

当時はこういう事は頻繁にあった為、

外出する時は前後左右に目を配る必要があった。



そして、行動に敏感になり、緊張感を養うにはいい経験となった。

学ラン目掛けて来たのだろう。・・・

そんな時代だった。

『三人がかりでこの程度の怪我では喧嘩技は、大した事はなかった。
チョーパンも来るのがわかっていた。』

2度の出来事で、心の底からなにか燃えたぎるものを感じた。
練習での根性ではなく、内に潜む秘めた根性が出来た気がした。
気合も入り、そして 少しの度胸も据わった。
これは、浮か浮かしてられないと強く察した。
それ以後、やらないと殺られてしまう！・・・

『先に殺ってしまえ！』という考えに変わった。高校時代から空手
をしていたが、人を殴ったことは無かった。殴ってたのは家の敷地
内にある杉の大木。人を殴る行為自体に罪悪感を感じてた。

片田舎から都会に放り出され、右も左も西も東も分からない状態。
これが山手線。これが中央線か・・・？と『何だぁ・・・この人の
多さは・・・』新宿・渋谷の人混みに驚き。派手なタクシー、夜の
繁華街、色彩豊かなネオン看板。そのネオン街に呆然とした田舎者が
いた。

長ラン着て独りで闊歩している姿を見た者の中で、ケンカを売ってくる奴は、まず居なかった。それでも来る奴は普通の奴ではない。こちらも部屋を出た時から気構えは決めていた。相手が近寄り一言しゃべり出した瞬間にいかに致命的になる一撃を当てるかだった。

当時の空手の練習も1年・2年生は、殆どが先輩からの、シゴキ・ヤキ・そしてイジメの繰り返しで空手の技の向上などの練習は無いに等しかったが、大学から始めた人よりは幾分か優越感に思えたこともあった。

先輩によっては『生意気だ!!・・・』と思われていると感じた事もある。

後藤先輩には・・・「樺澤の空手は画に成るよな～・・・」と何度か褒められたのも記憶に残る。

『後藤先輩・・・ごっつあんでした。・・・押忍・・・』

シゴキやヤキからくるのか?・・・人間の心の中から出る精神力で強くなろうと思う!『チクショウ!!』『コンチクショウ!!』と精神が芽生えて来るのが分かった。

シゴキも頭にコブ、目の周りの青タン、みぞおち(水月)や脇腹を蹴られ、のたうちまわる。脇腹のヒビなどは日常茶飯事。

そういったうっ憤を人や物に当たり散らしたことは無い。

練習は練習!!終わったら考えを転換することを念頭に置いていた。

学生寮や賄いアパートでないので自由にあちこちと出かける用にし、ストレスは貯めなかった。

休みの日は単独で行動することが多かった。

物珍しさであちこちに出かけた。

有楽町で日劇の歌謡ショー。銀座散策。後樂園ホール。後樂園競輪。

また、新宿区の保善高校から来てた渡辺ちゃんが何故か私に引っ付いていたことが多かった。

今、こうした過去のことを綴り書きして思うに、当時は確かにヤキ・シゴキ・イジメと捉えるのは間違いない。然し乍ら、ある程度は致し方ない時代だったし、練習の一貫であったと思っていた。そうした事が精神面も強くし、根性も出来る。一年の夏休みと二年生の夏休みが、大学を去るか!!?我慢するか!!・・・が?ターニングポイントであった。

一年の夏休みに入り、少し遅れて帰省した所、お袋の第一声

「春雄・・・おまえは学校に行っていないのかい？」

啞然!!・・・鳩が豆鉄砲を食らった状態に・・・

『大学へは行っていたのにどうゆう訳だ・・・』

前期の成績表、出席率、素行態度などの連絡情報が先回りし、実家に届いていたのだ。

『通達』

「この様な成績では進級は困難かと思われまます。良く話し合ってください！」だった。

『市川め、市川学生監めが!!』

これこそ大きなお節介。余計なご心配。

部活動の稽古が夕方からあるので毎日行っていたのは真実だが、授業に出た回数が足りなかったのもそういった報告が来たのだ。

姉曰く「あまり、心配をかけないように、母はいつも春雄の事を案じているよ!!・・・」

一年生の一学期は不慣れな一人暮らしの生活。言い訳になるが巣鴨から大学（鶴川校舎）までの距離があるのに早起きできない。朝寝坊が原因で遅刻が多い。従って出席にならない。その結果が規定の日数に足らず。・・・ 夕方からの部活動は皆勤だった。

稽古帰りの道すがら、歌舞伎町の先輩の店に寄ってご馳走になると朝起きられない悪循環を繰り返した。

こんな中ではシゴキの話は、持ち出せなかった！

稽古はシゴキで始まり、ヤキで終わる。

「樺澤!!・・・Yはどうした?・・・」

『押忍・・・自分!わかりません』

「何!?明日必ず連れてこい・・・部屋行ってこい!統制長の責任だぞ!!・・・」

『押忍!失礼いたしました。』

『Y・・・』 『先輩らが呼んでるぞ!!・・・』

(もう!!辞めたいんだよね!?!・・・)

Yは・・・

夏休みに帰省した際に親に大学の話をし「そんなに酷いのか・・・?」

と親子で話し合い、度合いが過ぎると判断し、その結果、大学を辞めることを決断して去っていったY君。

部活をやめても大学に来れば、先輩に会う。気まずいし勿論ヤキも入る。部活を辞めるというのは大学を辞めざるを得ないことで、当時はその流れで大学を去ることとなる。

こんなのも一つのシゴキだったのか・・・

互いに向き合い、左腕と左腕を前に出し、手を握り（握手状態）、先輩は右足で左脇腹への中段蹴りや、左顔面への上段蹴りを入れてくる。自分らは、蹴りを入れてはいけない。格好だけの右足蹴り練習。練習という名の！ シゴキだった・・・

シゴキの次の日、一時限目の出席は厳しかった。出席が3分の2以上で試験が受けられる条件になる為、留年する者も多く翌年より後輩と一緒にクラスになる。それを我慢できない。プライドが許さない人はサヨナラ組となる。

その後しばらく空手の練習に打ち込むことが出来た。梅ヶ丘公園での野外練習では、急勾配の場所でサンチンの構えで立ち、そこを先輩方が腹に何度も前蹴りを蹴り込む、みんな土手から転げ落ちた。

(これも愛のムチです。)



19歳

多摩川の河川敷

一年生の夏季休暇も終わり、大学へ行くといつものように出欠票が配られた。半数までも行かないが三分の一ぐらいの人数は減って戻ってこなかった。(一般学生も含む)



- ・ 尾崎・二年リタイア
国士館高出身 高校時の番長
- ・ 荻野・四年卒業
国士館高出身
- ・ 小島・一年リタイア
法政二高出身
- ・ 寺島・四年卒業
国士館高出身
- ・ 自分
国士館高出身
- ・ 大谷・四年卒業
川口高出身
- ・ 高橋・二年リタイア

法学部七人衆 19 歳



- 「東京・保善高出身
渡邊・八年卒業」
- 「山元守師範」
- 「北海道・紋別高出身
和田・五年卒業」
- 「福岡・直方高出身
豊福・二年リタイア」
- 「自分」





大阪万国博覧会出場のため、大阪駅到着

男度胸

男度胸^{はがね}は鋼の味よ 伊達にゃ下げない腰の剣
抜けば最期だ命を賭けて 指もささせぬこの護り

流れ豊かな黒竜江の 岸の繁み^{すみか}がわが住家
水を鏡に鬚面剃れば 満州娘も一目惚れ

可愛い^{はいのう}背囊の枕の元 今朝はひらいた名無し草

千里続いたこの流れ砂 ^くに御国の光で花も咲く.



後藤先輩

二年生終了時には半分近くは消えていた。

。。。。
大学を除籍処分(退学)を食らって、二年生からやり直したモノ好き
も居たのに・・・・・・・・

「士館節」

士館良いとこ誰言うた
松陰神社のその中に
粹な學生が住むという
一度は惚れてみたいもの

士館良いとこ誰言うた
松陰神社のその中に
粹な學生が住むという
一度は惚れてみたいもの

胸の蛇腹にしがみつき
連れて行きゃんせ國士館
連れて行くのは安けれど
女の座る席は無い

胸の蛇腹にしがみつき
連れて行きゃんせ國士館
連れて行くのは安けれど
女の座る席は無い

座る席が無いならば
せめてあなたの膝の上
ともに許した仲ならば
館長先生も許すだろ

座る席が無いならば
せめてあなたの膝の上
ともに許した仲ならば
館長先生も許すだろ



「後藤先輩覚えてますか？」

今だから真実を語っちゃおう！！

新宿歌舞伎町のアシベ会館を出た二人は、帰路についた。

先輩は梅ヶ丘、私は経堂へと小田急線最終小田原行きに乗るべく地下通路を歩いていた。

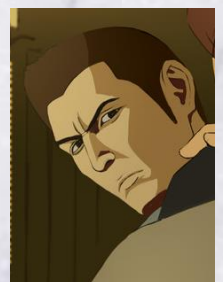
その時前方より、いかにも男が背広を脱ぎ、両肩に引っ掛け、私の方向に突進して来た。

案の定、右肩と右肩が「ドーン」とバツティング、そいつが

『気をつけろ！セイガク』…

その場ですぐにストリートファイトかと思いきや、通り過ぎていく男、

「先輩どうしますか！」『うん！やっちゃおー』『押忍』



その男の後をつけ中央口を出て薄暗い場所になった、

《おい！》 その瞬間、右の回し蹴りが男の右脇腹にヒット！

「ドスン」「うう～」 脇腹を抑え苦しがる男。

間をあげずに私がパンチのラッシュを浴びせ側溝に落とした。

当時側溝は深さ 1.5m位でフタはなかった。

立ち上がった男の顔面に蹴りを5、6発見舞った。

後日談

『あれはどう見ても堅気ではないな！』

「堅気でなくてよかったです。スジモンじゃあ警察に行かないし！」

当時は思いもしなかったが、小さい人間に的を絞って来るのは、至極当然の流れではないでしょうか・・・？

然しながら小さい人間が突っ張って歩いているのは自信があるからで！今までにイジメられて強くなって来てるし、大きいのと一戦を構えることは、逆に当たり前で、慣れている・・・

小さい人は大きい人に比べ、ケンカを売られる率が高い。増してや突っ張ってればさらに高くなる・・・

そこで引き下がるか・・・？ 行動に出るかの二つに一つだ。

『小さい人を^{あなど}侮るなかれ・・・!!

必死の心が強い・・・』のだ

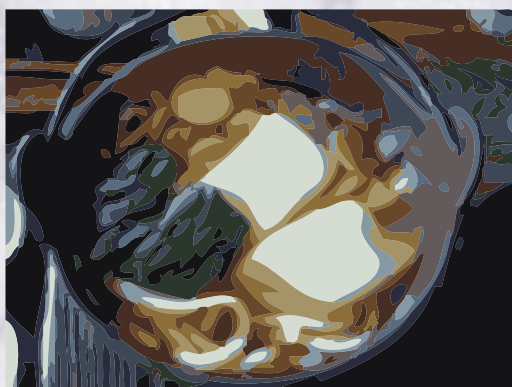
殆どが単独での行動からトラブルになり、ステゴロ・タイマンのストリートファイトだった。

後藤先輩は現在はD大学空手部師範。

常に前向きな先輩である。

アパート近くで一緒に食べたカうどん、

美味しかったです。



今、存命しているのか？ 幾つになったんだ！

いい死に方しね～ぞ!!

翌朝 6 時半に起こされ、7 時、朝飯後 8 時から取り調べが始まった。本籍、住所から事細かに聞かれ、事件が何故起こったのか・・・？ 昼飯を挟んで事件の内容等をびっしりと聞かれた。17 時位、房に帰され、夕飯・・・

そして 21 時。消灯の合図で寝かされ、薄暗い部屋の中。目をつむったとき・・・「母ちゃん・・・迷惑かけるなあ・・・」

・・・とお袋のことだけが気掛かりだった。被害者のことは、一切思い浮かんでこなかった。被害者面した中には前科 6 犯の奴もいた。

(のちに知らされた) など。

攻撃仕掛けてきたから、報復しただけのこと。自分の理論で失礼。

留置場の看守にも人のいいのもいて、裏の廊下に回ってきて「タバコ、吸うか!？」と優しいのもいた。当時の原宿署の房の中には、トイレがなく「担当さん排水願います。」と申し出をし、解錠してもらってから奥にあるトイレで済ます。

トイレから房に帰る途中、若い看守が「うん、腕は太いな！ 胸板は、そうでもないのにな！」と、やたらと身体に感心がある様子だった「あんなに大勢とよく立ち回ったな！」なんて独り事を言っていた。話は誇張されるもので他の看守が「なに！ 殆どが跳び蹴りだったって!! 見てた人からでも聞いたんかい!?!」

それじゃ…マンガだ!!

留置されてる人間は、何らかの法を犯している人達だ。

微罪で一泊2日で釈放。勾留期間10日や20日の検事調べで釈放。

検事パイ。重罪にて拘置所に移送され公判後、刑期を言い渡され長い懲役に行く者等様々だ。

同房には慶應大学病院内で窃盗を繰り返したS氏、白衣を着て病室を覗き看病人のいない隙を見計らって入院患者のベッドの下から金品を窃取する。白衣を身に付け廊下を歩いている



と、皆さん会釈する。との事。

詐欺と窃盗の前科が何度かあると言っていた。

「樺澤君は10日か20日の検事パイだよ！」と、いやに詳しかった。



あと一人は都内のスナックを荒らし回った、「スナックの敵」と騒がれた男。

隣の房には、夜中になると泣き出す男、夜道で前から来た男にからかわれ

「やめてくれ！」と押したら側溝に落ち

運悪く頭を打ち、死亡してしまった。と言う。

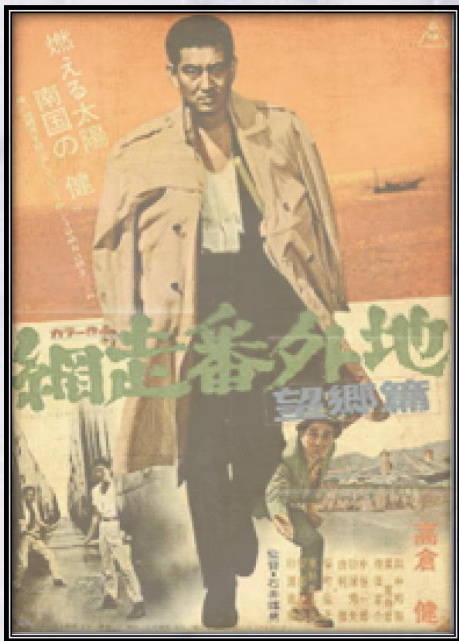
『皆さん、お世話になりました。

お先に行って参ります。』

と元気のいい挨拶をし、網走刑務所におちる。27才の男の姿が私は印象的だった。殺人で8年の刑。



(当時は刑期が安かった様ですね。)



その時代は任侠映画が盛んに上映され、網走番外地や昭和残侠伝等が人気で私もそのファンの一人だった。

網走刑務所へこれから実際に行く人と、映画の中の高倉健の姿が一瞬融合した。



留置場から直接刑務所へ移送するのは、警察署の都合なのか、まだ余罪があり警察の意向でいつでも取り調べが出来る状態にし、長い間留置しておく代用監獄としての利用なのか。

当時の私は考えもなかったが昨今では考えさせられる部分だ。

留置人の考え、言い訳等を聞かされたりと吹き溜まりの中、釈放になる。2万5千円の罰金刑、大学からは除籍処分。

他の房にいた蒲田の親分も同日に釈放になった。

「行くところなかったら、家^{ウチ}に来いや！ 蒲田に来れば面倒見るぞ！」
と喋って出迎えの三人に風呂敷包み

を投げ渡したのを横目に見た。

私の出迎えは上の兄一人だった。

私は被害者への思いと、反省の意味を
込め山に籠った。



高峰高原の山の上、ロッヂに籠ったのは有
楽町駅前に交通会館ビルがある。



その中にある経理会社に兄が勤務していた。

高原ロッヂとスキー場を経営する会社の経理を兄が担当していた関
係で、今現在の状況での身の振り方を考えてくれた。



頭を冷やす意味も含め、高峰高原ロッヂが
良いのでは、と判断した。

10月末に信州の小諸駅を降り、
国鉄バス高峰高原ロッヂ行きに乗り、
1時間半ぐらいの道のりだった。



仕事はスキー場オープンに向け、リフトの取り付けの作業だ。



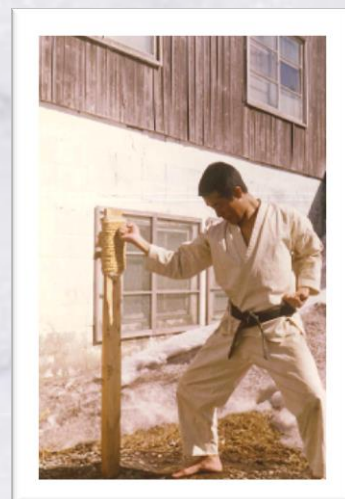
地元のりんご農家のおじさん達が農閑期に7～8人が朝登ってきて17時位に帰っていった。

スキー場がオープンまでのバスは土曜日と日曜日に朝10時位と午後3時の1日2本の往復便のみ。

土曜日は、お泊りのハイカーが何人か来るのが楽しみで、会話も弾み、花も咲くこともあった。

日曜日に暇をもらい、東京・水道橋へ出向き、サンドバックの買い付けに行った。

担いで電車からバスに詰め込み、高峰ロッヂに運んだ。サンドバックを地下室に移すと営繕のおじさんがセットしてくれ、野外に巻き藁も作ってくれた。



そして東京では・・・ 11月25日、陸上自衛隊・四谷駐屯地で三島由紀夫氏が割腹した後、森田必勝氏によって三島氏の首を介錯し、森田氏の首を小賀氏が介錯した事件が起きた。

陸上自衛隊の皆さんは三島由紀夫氏に誰一人と賛同しなかった模様だ。

12月に入り、雪が少しずつ降り始めた。

中旬になり、スキー場がオープンになった。

仕事もリフトの取り付けがなくなったので、ボイラー技士の指導を受け、ボイラーの操作の仕事を任された。

12月も終わり頃には、小諸市と佐久市の高校生10人くらいがアルバイトに来ていた。

スキーをしたのは高校生の時に2度のスキー教室だけ。

経験は無いに等しかった。

昼はボイラー技士が小諸から上がって来るので、夕方にボイラーの点検とスイッチの入力で至極簡単な作業だった。

昼はスキーをするのが当たり前のようにやっていた。

夜はサンドバックを相手に鍛錬を欠かさなかった。時々高校生相手に空手の手解き。

高峰高原スキー場もお正月は大変な賑わいだった。



渡辺ちゃん・江原ちゃん・生方君などが遊びに来た。

1月～2月は毎日がスキー三昧の日々だった。



3月の中旬に、明治大学のマンドリンクラブの人たちが合宿に来た。

最終日の打ち上げ後、二人の酔っぱらいが私の部屋に入ってきて

「明日帰るんで、一緒に飲もう！」と叫んだ。

部屋では地元の人と3人で飲んでいた。

その頃は、酒が強い方だった。

コタツを囲み、若さに任せて飲み比べなどをしているうちに、向かいの男が一升瓶の空瓶を私に目掛けて、力任せに投げつけた。

一瞬右によけたが、回転した一升瓶が後ろの襖に突き刺さった。

避けられなかったら重傷だ。

殴っても仕方がない。もうだいぶ酔っている。なだめながら飲ませた。

二人は泥酔し、爆睡状態になっていた。

私も大分酔った。

何故かコタツの上に誰が持ってきたのか大きなマヨネーズがあった。
一升瓶を投げつけた男のパンツの中へ大竹君がマヨネーズをたっぷり
りと注ぎ込んだ。

パンツがパンパンになった。

二人を廊下に引きずり出した。

次の日「昨晚は、酷かったな！」問うと

ビンを投げた事も覚えていない。酒癖の悪い御仁だ。

相当につらそうだった。パンツの話は出なかった。

そんなこんなの半年間。

楽しかった高峰高原のスキー場の思い出の1ページ

何のあても目標もなく過ごしてきた。……

成れの果てが山での生活。

それでも考えてた事の一つに、2年からの復学

許可があれば大学に通う

復学願い却下の時は、アウトローとして生きて

いく道も有りか……？と思案もしてた。

それには慕う人物。親分の選択が大事になる……が、



クリック

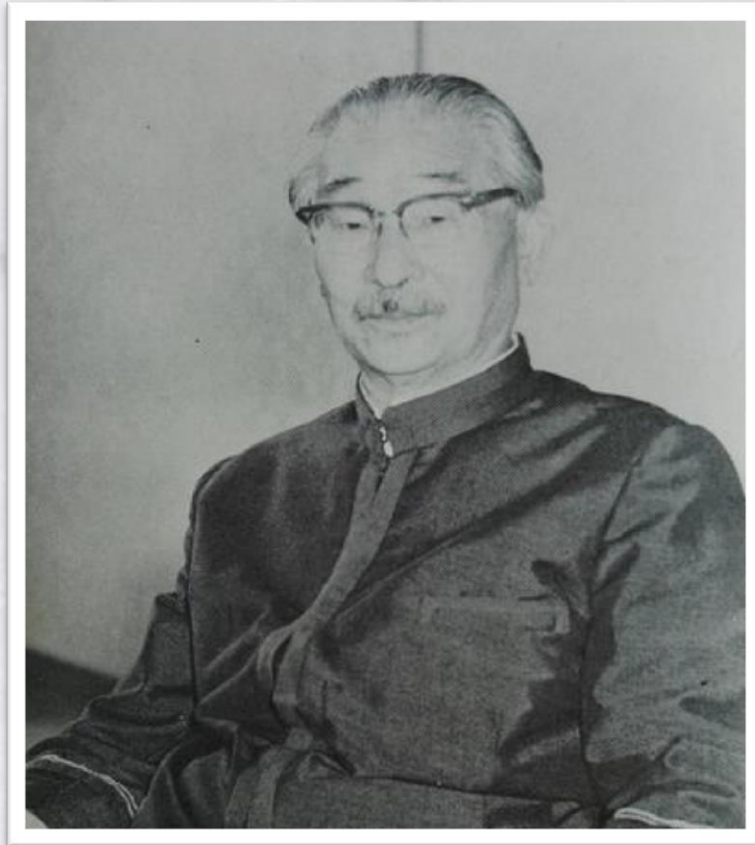
♪ 回転禁止の青春さ

当時慕っている貸元には、残念ながらお目にかからず縁がなかった。

そして半年後、酒一升を手土産に総長室に行き、総長へ直談判した。

君は元気があってよろしい、復学認める

であった。 <今では到底考えられないことです>



柴田徳次郎先生

因みに当時は授業料と雑費で年間費用15万円だった。

現在は150万円だそうだ。

2年生からの復帰となった。

復学を許可された私はまず学生監が変わったことを知らされた。

学生監は四年生まで連携していくのである。

後日学生監が話した事には「意味合いが違うけれど樺澤！あの記事は一社500万は下らないぞ」

最初は何だかわからなかった…。

広告宣伝として掲載を依頼した場合に掛かる費用のことだ。

ほかにテレビ放映、ラジオ等。読売新聞と毎日新聞は同期で高崎出身の江原ちゃんに渡された。その時に「テレビにも出てたよ」と言っていた。

江原ちゃんは一年先に卒業し証券会社を定年退職。現在は悠々自適な人生を送っている。

復学した私を見たKは、驚きの様子だった。私を見る度にこそこそして、最後には逃げ回っていたので、それ以上追わなかった。



クラスに二年遅れで他の大学から編入学してきたバカデカイの
いた。195センチ。125キロ。と言っていた。

高校まで柔道をして、インターハイ出場経験のみだそうだ。

国士舘では部活動はしてなかった……で、そいつに聞いてみた。

『今まで喧嘩を売られたことはある……？』

「一度もないね!! でも小さいのが言ってきたら怖いよ!!」

大きな^{カラダ}身体に^{ノミ}蚤の心臓。

二年生から編入してきたものだから、自分が下のクラスで授業を受
けてることを知らない大男は……

「何か？ 皆、君に、挨拶するね……？」

と言っていた。

喧嘩になりそうな場面……ケンカになる瞬間……

怖いと思ったことは一度もなかった。脳裏をよぎったのは

[パクられるか?]だった。

今、こうして歳を取り、振り返ってみると『ゾッとして鳥肌が立つ』

二度目の2年生の6月頃、梅ヶ丘駅で、1年先輩である愛知県出身の高瀬先輩と偶然出会った。先輩は4年生になっていた。

「樺澤！家に遊びに来いや！」と声を掛けられ

「押忍、ありがとうございます。」と祖師ヶ谷大蔵の部屋にお邪魔した。部屋の中が学習モードになっていた。



祖師ヶ谷大蔵駅 昔



『樺澤…、これからは資格の一つ位はないとな！』

「先輩何の資格ですか？」

『宅建資格だよ！』と

机の上に置いてある六法や専門書に赤線が引かれ、ノートもぎっしりと書き込まれて学習の程度がかなり進んでいる様子だった。

毎朝軍艦マーチを聞き、気合を入れて部屋を出た高瀬先輩。

毎日稽古して日本武道館で行われる全日本大会で、毎年上位に食い込むほどの先輩だ。

その先輩の変貌した姿を見たのだ。



「宅建主任の試験問題も、40問中35問位は出来るよ。」

と言っていた。

『樺澤・・・その本（民法）、適当にめくって第何条・・・と指摘してくれる！？』

「では？、第446条！」

『保証人の責任・保証人は主たる債務者がその債務を履行しないときに、その履行をする責任を負う。保証契約は書面でなければその効力を生じない。』

「次は・・・第396条・・・」

『抵当権は債務者及び抵当権設定者に対しては、その担保する債権と同時でなければ、時効によって消滅しない。』

こんな感じで即答してくる。よくも、まあ～ 暗記したもんだと感心した次第でした。

試験が10月なので余裕綽々の感じだった。レストランでご馳走になった。先輩と私とではかけ離れたなーと思いながら失礼した。その後は大学で会う時に挨拶する程度で、先輩は卒業して云った。25年程前に同期で茨城の山本ちゃん（少林寺拳法部）の話で驚嘆した。

なんと港区赤坂で不動産鑑定士事務所を開業している。

※不動産鑑定士とは、不動産の経済価値に関する高度な知識を要する専門家である。

「高瀬先輩・・・宅建主任試験はほんのお遊びだったんですね。」

私はその頃はまだ、それに興味はなかった。

2年生の頃。週末には福生市にある米軍横田基地に空手の出稽古で、後藤先輩らとよく出掛けた。

基地内の体育館に入るとバスケットボールを盛んにやっていた。

皆さん、デカイ、大きい、黒人、白人の軍人たちだ。



「Are you a high school student?」とからかわれた。

何度か稽古に行った日、5対5マッチの練習試合を行う事になった。

先鋒の自分の相手は、背丈約 2m、120kg 位の白人だった。

先制攻撃で中に飛び込み、インファイトの戦法だ。

前蹴りに注意。(頭にインプットし)

「始め！」

フェイントを使い「サッ！」と中に入り、

正拳突きサマの連打「バスッ！バスッ！

バス〜ン！」と胸元に当てた。



下がってはまた、中への攻撃を繰り返した。瞬間、両肩の上から空手着を驚掴みされ、右に振られてから

「ウォ〜ッ！！」と左にぶん投げられた。3m位飛ばされた。

(投げ技禁止)

反則も何もお構いなしだ。

すぐに立ち向かう。小さいのが果敢に攻めていく様を見てたバスケサマの人も応援してた。

「Good Fight!!」 「Nice Spirit!!」 「Little Big Man!!」

小さな巨人と呼ばれた時は、ちょっと嬉しかった。

練習後、浴室で体を洗っていると、隣へバスケの黒人が座った。

「You サムライ！ね？」 「カミカゼ！ね？」

『ああ～ありがとう』と・・・

何気なしに視線が彼の下の方へ・・・

“驚嘆”した。

彼の「自身」が下に届き、折れ曲がっているものがタイルを舐めていた。

「世界はヒジョ～～～に大きい。」で～す。

当時の空手は、無差別で試合をするのが当たり前で、首都圏空手道選手権大会（宇都宮）の時も優勝候補の大型選手（185cm）に2回戦で「ビシッ！バシッ！バシッ！」と顔面連打をし、

「反則負け！」となった。

この時は、途中で上に進めないと判断し、どうせなら！顔面叩いちやえ!!と自発行為。 「当時これが自分の空手スタイル。」

二年生も終わりに近くなると一般学生

（クラブ活動に入っていない学生）の中には、

行政書士、宅建主任に合格している者も何人かいた。



それと中学校、高校の国語と社会の教諭になるべく教職課程という別の必須科目をいくつも受講する学生もいた。その課程を終了後、都道府県の教員採用試験に合格出来れば教諭になれる。

私にはそういった情報は、柳に風だ。

またその柄でもなかった



3年生からは、世田谷区役所の隣、世田谷校舎。本校舎だ。

同期で大阪出身の中村君と中庭で1年半ぶりに会った。

中村君は4年生。(復学して2年生は鶴川分校1年、半年は山の中。)

唐突に「暫く！　ところで樺澤君、アメリカに行ってみない！？

兄(日大空手部出身)がサンフランシスコで空手の道場をしていて、インストラクターを探しているんだ。樺澤君！　どうかな！？」

と言ってきた。

『いつから！？』

「すぐに欲しいらしいよ！」

『すぐかあ～』

で話は途切れて終わっていた・・・・・・・・。



「今だから真実を語っちゃおう！！」



[クリックしてね](#)

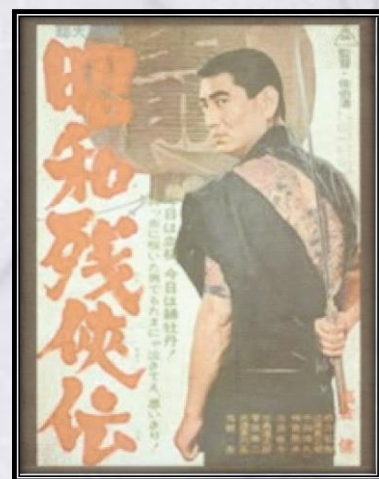
前期試験も終わり、今日は部活の稽古もない。

昼を回った頃、経堂駅の南 OX ストアの逆側の映画館に出向いた。三本立て 500円！ すべて任侠映画。スクリーンに

向かって通路右側に座り右席に学ランを置き観賞していた。

一本目が終わりに近い頃、後ろの男が組んだ足で背もたれを押ししたり当てたりし始めた。何度か繰り返すので「おい！やめろ！」と言うとしばらく収まる。「すみません」でもなく無言の男だ。

その後に又、足をぶついたり押ししたりを繰り返す。



[クリック](#)

こいつは何者だ！（やめろ！）と注意したのに？ケンカ売ってるのか！！ナメテルな！お灸して差しあげよう！教えてあげよう！

お行儀の悪い事を… …



段々とハラワタが煮えくり返ってきて、イライラが頂点に達した。

映画が終わる寸前に立ち上がり後ろの男の左肩を引っ張り挙げ立たせた瞬間その位置の傾斜を利用しチョーパンを炸裂させた。

※チョーパン・・・頭突き 武器とするには瓦なら10枚は割れないと自信もって出せない。

ニメートル程座席の中にぶっ飛んだ。

そこで帰ればいいのに…追っかけ顔を何度か蹴った。その瞬間足をすくわれバランスを崩し倒された。形勢逆転。馬乗りになられ顔に一発食らった。必死で股間にパンチの連打をかました。

『うう～』と唸った。何秒後か!?男が左肩に噛みついた。

その時『やめろ！やめろ！』と止めに入った人がいた。

『士舘か!? 逃げろ！逃げろ！あとはやっつく！

デコが来るぞ!!!』とかばってくれた。

※デコスケ・・・警察官



逮捕はゴメンと思いい後味悪いがその場から立ち去った。仲裁に入ってくれた人が何処の誰かは今だに知らない。

四十年過ぎた今でもくっきりとそのキズは残っている。表情を表さない変な奴が居たもんだ。



クリック



海は真っ赤な恋の色
続・東京流れ者

「山形県は酒田市出身の手塚先輩、お元気ですか！」

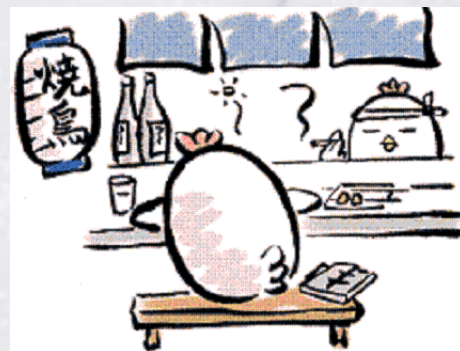
狛江町で小料理屋を営んでいた時には、何度となくご馳走様でした。

3年の夏の終わり、先輩の店を出て和泉多摩

川駅前で、チンピラと揉めてひと悶着あり、

結構な数殴って頭突きも5~6発位入れて

帰った事がありました。



この位置が事件現場



昔と今 和泉多摩川駅

☀️ 交番はこの位置

当時駅前に小さな一人交番が有り、そのおまわりさんも一部始終を
観覧していた。彼は若く毎日敬礼してくれていた。

(そして、おまわりさんは止めに入ることもなく、
次の日も敬礼してた。)



2日後部屋に静岡県藤枝市出身の、同姓の手塚先輩の弟で、拓大に通っている手塚君が来て

『樺澤さん、捜されてますよ！今狛江、和泉多摩川、登戸各駅の喫茶店を回ってるらしいです。』と教えてくれた。

手塚君がまた数日後に来て、

『おまえそいつを知ってるんだったら○日○○スナック 19:00に来いと伝えてくれ』と言われました。

と呼ばし出された。

「そうか～それじゃ～行ってやるか～」と

その日、そのスナックに入った。

年配の太めのオヤジが居た。その若者もいた。

私も22才だった。

話がなかなか進まないで、オヤジの方がケンカの内容はもういいからと『まあ～、いいようにしてやってくれや!』

と言うだけだった。

2人は外に出て、私はそいつに「悪かったな!」と謝って終

わりになった。そいつが言うにはオヤジは、川崎市の

錦政会の組長だそうだ。そしてその若者だった。

(現・稲川会)

話が終わり店に入った。



組長に「話は終わりました」と伝えた。

組長は『おまえは以前新聞に出た事があったな!』と言った。

「押忍!」…

『まあーこっち来て、飲めや〜』

「押忍!頂きます!」

とビール一杯ご馳走になった・・・

「それでは失礼します。」・・・・・・と店を出た。

金銭の要求は一切なかった。

ヤクザに良いヤクザ悪いヤクザと仕分けすることは適切ではないが
任侠の道に志を持ち、組織の上層部に昇った人間は堅気の人より義
理堅いし約束を守るし、遅刻すらしない。

私の五年間（正確には4年7ヶ月）の学生生活は突発的な事件や
想像もしない事が多かった気がする。

ある日、先輩の店にお邪魔すべく、東口を出た。

新宿通り・靖国通りを横断し、風林会館近くを歩いていた・・・・・・

チラシ配りのあんちゃんが腕を突っついてチラシを渡してくる!!

それを無視して歩いていると後をついてきて、学ランの詰め襟を

覗いた。



『法政か・・・？』！！と言いながらしつこく寄って来る・・・

(法政大学)

法 → 法学部の章

一旦受け取り、2～3歩、歩いてそのチラシを頭上から放り投げて
やった・・・

『いらねえっつんだよ!!』 『ヤスキーんだよ!!・・・』

(気安い)

それを見た男が追ってきて、左腕を引っ張り、襟元を掴み掛かって
きた!!・・・ 間をあげずに腕を払い、同時に男の前足を思いっきり
蹴り上げた・・・の瞬間足が吹っ飛んだ・・・これにはぶったまげた。

「膝から下が義足（人工の足）だった・・・」

[やべえ～と・・・トズラした。]

国士館の学ランを知らない・・・この男はどこから来た田舎者なの
か・・・？ こんなのが歌舞伎町にいたことにも心外だった・・・

街の片隅ではゴロツキのグループ・・・

肩で風切って闊歩してくる奴・・・

いつもの街角に立ってて。 定位置から声を掛けてくれてた。

左腕のない現役のアウトロー、住吉連合会の大幹部Dさん・・・

(現・住吉会)

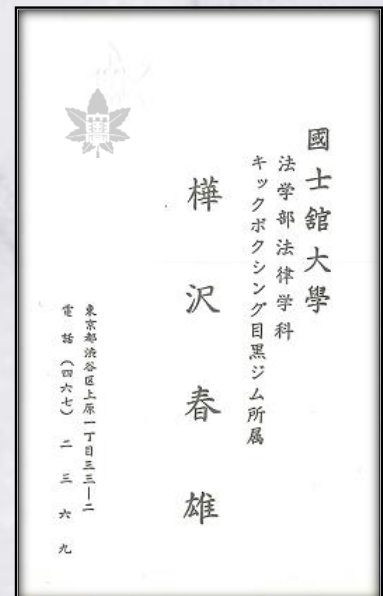
『おう一帰るんか・・・？』

腕のない左袖を上着のポケットに突っ込んでいるスタイル。

出入り。(抗争) で左腕を落とされたそうだ・・・

『うん・・・いんだよ!! 俺も相手の足を切り落としてるから・・・』

と笑って話す明るいDさんだった。



学生生活4年7ヶ月の間、住まいを5ヶ所移転した。

巢鴨、経堂、和泉多摩川、代々木上原、千歳船橋、中でも代々木上原は駅より2分程度で便利な部屋だった。

左隣の住人が東京大学法学部の学生だった。宿題を頼むといつもすぐにやってくれたので大変に重宝した。

直ぐに宿題をやってくれた理由^{ワケ}・・・

東京大学法学部と云えば日本の最高学府の中の最高峰。

県内で成績トップテン、1日10時間以上は予習、復習と学習しないと合格ラインには充たない！！脇目も振らず、真っしぐらに突き進んできて、学習しすぎたのか視力も衰え、眼鏡を使用。そんなイメージ色を持っていた。

ところがこの彼は、男前、今でいうイケメンの美男子。

人間それぞれ趣味、嗜好はある。物の考え方、見方などの違いの中、その度合いの基準がない。物欲・性欲。健康な人間であれば、当たり前のことだが、この基準も教科書もない。

性癖・・・

持って生まれて内に秘めたその人の強い特性としての性欲。

この絶倫男が彼だった。正に竿師だ。

(竿師：性欲の強い女を手玉にする男)



とっかえひっかえ、日本の三鳴鳥宜しく、昨日はウグイス(鶯)。今日はオオルリ(大瑠璃)。明日はコマドリ(駒鳥)。いいさえずりを聞かせてくれる。鳥は普通朝方さえずるが隣の鳥は、朝・昼・晩・真夜中とさえずりが止ま^ヤない。こんな東大生がいるのか？といたんですね！！

これはお灸を差し上げないと！

「おい！声出さすな！今度出したら摘みだすぞ！！」と一喝そんなことから「宿題やっつけ！」の一言で二つ返事。



こうゆう事でも無ければ、元来人にもものを頼む性格の人間ではない。それにしてもイケメン東大生はモデルクラスの女性を何処でチョイスして来てたのか？勉強も徹底的に仕上げ、大学に入ったら女への道！性道まっしぐらに極める！御仁だった。此処に居ると環境も良くない。体にも悪い。なんせ勉強に身が入らない。
??

(この時の部屋にあったのは蒲団一組とステレオのみ)

軍艦マーチが小鳥のさえずりに負けた。

半年で千歳船橋に引っ越した。



4年生時は千歳船橋駅からほど近いところへ移った。

千歳船橋事件は時効とはいえ、諸事情によりまたの機会に。

「合掌」

巣鴨奇襲事件(1年)、リンチ傷害事件(1年)、南新宿事件(2年)、

原宿事件(2年)、新宿中央口事件(2年)、経堂映画館事件(3年)、

和泉多摩川事件(3年)、千歳船橋事件(4年)...

細かいものはもう少々ある。

相手様のことは分からないが、私も身体上の故障もなくこうして生きています。

それから少し前に歳月を戻し、私が大学への進学をどうして選択したか？その理由はズバリ...

【就職して仕事に従事したくなかった】ただそれだけ。

勉学に励み、将来に向けて資格取得の準備とか。




公務員になりたいとか、良い企業に入りたい為等の考えは一切なくただの遊び感覚で選んだ。

私の頭もごく普通程度で、高校は普通科だが特に受験に向けての勉強はしていなかった。



高校3年の17歳 片山君

この頭の状態で受かりそうな大学を吟味し考えてみた。

拓殖大学商学部 国士舘大学法学部 日本大学文理学部
の三校を受験した。

三校より合格通知が来た。一生懸命に勉強して偏差値の高い大学を受験しそのすべり止めで受けておくのではなく、とにかく行ける所はどこか！であった。

バンカラの拓大、悪名高き国士舘、穴場の日大文理。

どうせならどんな悪がいるかと、国士舘を選択した。

国士舘法学部、試験日のいきさつ・・・

午前に筆記試験、午後に面接試験があった。その面接官の一人が

「君は内申書の成績がいいね!! 今日の試験は易しかったでしょう？」

『はい・・・簡単でした。』と正直に答えた。

高校3年生時の担任、田中先生（数学）が成績を良く書いてくれたんだなーと思った。試験は本当に易しかった。

後に親しくなった、小田原からロマンスカーで通学してた、栢本ちゃん（日本伝拳法部）が、試験会場で席が斜め後ろだった！・・・そうだ。

「樺澤は、速く書き終わって腕組みしてたよ」と言ってた。

そして晴れて国士舘大学法学部に入学した。

学生監といって、出欠をとる専門職が居て授業の前にカードが配られ、氏名と学籍番号を書く。

カードも色を変えたりして出された。

授業回数の3分の2以上の出席で試験が受けられる条件であった。

出席を重視する校風で、授業前のカードを提出時間に遅れるとアウト。出席にならない。出席カードを出して後ろからエスケープして、喫茶店で時間をつぶしてる事が多かったが、学生監もクラスの様子を見に来ることがあって、その殆どの学生が居ない事もあり出欠を二度取りされたり、授業の最後にとったりする。

またそこに居なければ欠席になる。

5年間の間、教科書とノートを持参した事が一度もなかった。

必然的にノートはとれない。

学ランで格好付けて歩くのに教科書ノートは似合わないし、通学路や帰路にバカモン達の奇襲に備えなければならなかった。

なので学ランの内ポケットには、相手が多勢の時に備えヌンチャクは常に忍ばせていた。

3分の2の出席も特に1年生2年生の時はキツかった。

それは必須科目を1時限目に持ってこられるので、8時半に入るには巣鴨の部屋を6時に出て小田急鶴川校舎にギリギリ。鶴川駅から校舎前まで行くのにバスの



タイミングを逃すと遅刻するので、タクシーの相乗りが多かった。

普段ノートをとった事はなかったが、試験の時の点数が基準に満たない時などは、教授より宿題を出され提出させられた事もあった。

80点以上（優） 80～70点（良） 70～60点（可）

60点以下（不可）

不可の場合は、他の学部と同じ科目があれば探して受講するか来年又下級生の所で受講する。

不可の時の宿題と試験の時は勉強した。

法学部の試験は、択一の試験問題ではないので、人のを見てカンニングして書くのは皆無だ。

例えば試験に出る範囲を、第何条から何条まで。特に第何条と何条を、しっかりと研究しておきなさいと言ういい回しだった。

例→（日本国憲法） 第14条

法の下での平等について記せ。（小六法持ち込み可）

2問出題でA-3用紙を半分ずつ位（90分）

時間だけはたっぷりあっても文章にする言葉が出てこない。

（刑法）第36条 正当防衛と 第37条 緊急避難の異差について論ぜよ。（小六法持ち込み可）

条文を書き判例を出して解説し、自分の意見を書く。

そういった具合なので、人のを写してもダメで答えがまったく同じ事もない。教授も民法では有名な、中村宗夫教授、商法の青谷教授などがいた。



大学時代・・・の

毎日の食事。コンビニもない時代、朝食は殆どが駅前にあった、立ち食いそば、うどん。昼は適当に店がある。夜は稽古帰りに何処か探して済ます。遅くなると、店が閉まるので、ことのほか困惑した。学生寮でなく、賄いアパートでもない。

ホテル・ニュージャパンに片山君が勤めていたので、時々行ってはご馳走になった。

片山君とは、高校1年時の同じクラスで、席が、前、後ろ。

同じく空手をしていたので、気が合った。

高校一年生の5月、前橋駅北口（当時は北口のみ）から1分ほどの表町2丁目23-8あたり（現在は分譲マンションがある。）にあった空手道場に入門した時・・・鳥山師範に言われた言葉・・・

「空手をケンカに使うんじゃないぞ～！！・・・」

翌日入門した前橋工業高校のにも同じことを言っていた。

『じゃあぁ・・・何に使うんだ～・・・』と思っていた。

その言葉が今でも忘れず、心に深く沁み付いている。

そして50年経ち、指導者となった今、入会者に

『ケンカに使うな！！』なんて言えない。

人を蹴る練習。殴る練習をしているのと、考え方はそれぞれだから。．．．．

片山は、高崎観音様の麓で資産家の息子。

彼は高校卒業後、新宿バーテンダースクール2年コースを経て、横井英樹社長のホテル・ニュージャパンに就職した。

学ラン姿でニュージャパンの1Fにあった高級レストランで、一人で飲んで、食べての姿は好奇の目で見られているのは察してた。

今、思うと学ラン姿での高級レストランは、場違いだったのか．．．？

当時は何も考えなかった。

何度目か伺って飲み始めたころ．．．．隣のテーブルに東映の俳優、梅宮辰夫氏が女性連れで席についた。

座るなり「おお．．．．士舘だ．．．．國士舘だ．．．．」

俺．．．．日大だよ．．．．」と問いただしたのか？独り言なのか？

話がしたいのか？聞こえるように呟いた。

こちらは、会釈もせずに、シカトしてた！

「何！！おまえ．．．．聞こえねえのか？」なんて．．．．

映画のように喧嘩を吹っかけてきたらラッキーなんだけど．．．

期待していたが、来なかった．．．． 非常に残念！！！！

その当時、不良番長の映画がヒットし、シリーズ化していた。



[クリック](#)

いつの間にかそれとなくテーブルから消えてた！！

こちら22歳・・・辰ちゃん34歳か・・・？

片山もアパートに差し入れに来たり、歌舞伎町へもよく飲みにも出かけた。

卒業後は、各自の仕事の道に進み、会うこともなくなった。

そして10年経過した昭和57年2月8日

・・・あの・・・大惨事！！が・・・

死者33名と多くの犠牲者を出したホテル・ニュージャパン火災が起きた。

片山はニュージャパンが消滅したために、関連会社の札幌勤務となり、30年・・・定年となった。



因みに、横井英樹は45歳の時、打ち込まれた銃弾を体内に残したまま、40年が過ぎ85歳で没した。

火葬し、残った骨の中に弾があったという。

それから、昼飯狙いでよく出かけたのが兄がいる有楽町駅前の交通会館だった。12時に1Fのエレベーター前で待ち合わせ、地下1Fの名店街でご馳走になった。時々屋上にある回るレストランでの食事思い出が残る。

何度か伺う内、会館の1Fに白銀堂と言う江戸・明治・大正時代に流通した古銭を展示即売店があった。覗いて観ると、大判金・小判金・和同開珎などなどが並び、その横に見覚えのあるものがあった。一分金・一朱銀・天保通宝などだ。これらは毎年晩秋の頃、えびす講の行事の時に蔵から運び出し、母屋で古銭を台の上に広げて祭り事をする。

※ えびす講は、七福神のえびす様のことで、幸運・金運・福を授けてくださる神様として、信仰されるようになった。



ショーケースの中を覗くと一朱銀に三千円の値がつけられていた。
店主に尋ねた。「三千円の値札の一朱銀は一枚いくらで買い取って貰えるの?・・・」

『上物なら二千元で買うよ・・・!』

だった。

その週末実家に向かった。

蔵の2Fの長持ちのなかにあることは以前から知っていた。

「母ちゃん!!今、古銭に興味があって集めているんで蔵の四番目のカギを開けてくれないかい?」

蔵の鍵のある場所は前から知っていた。一番鍵・二番鍵・三番鍵はカギの大きさに違いがあるが、普通に開く。四番目のカギが特殊な作りで、縦長の溝から直角のカギを差し込み、30センチくらい左横にある溝に合わせて上に押し上げないと開かない構造になっている。



一番鍵



三番鍵



二番鍵



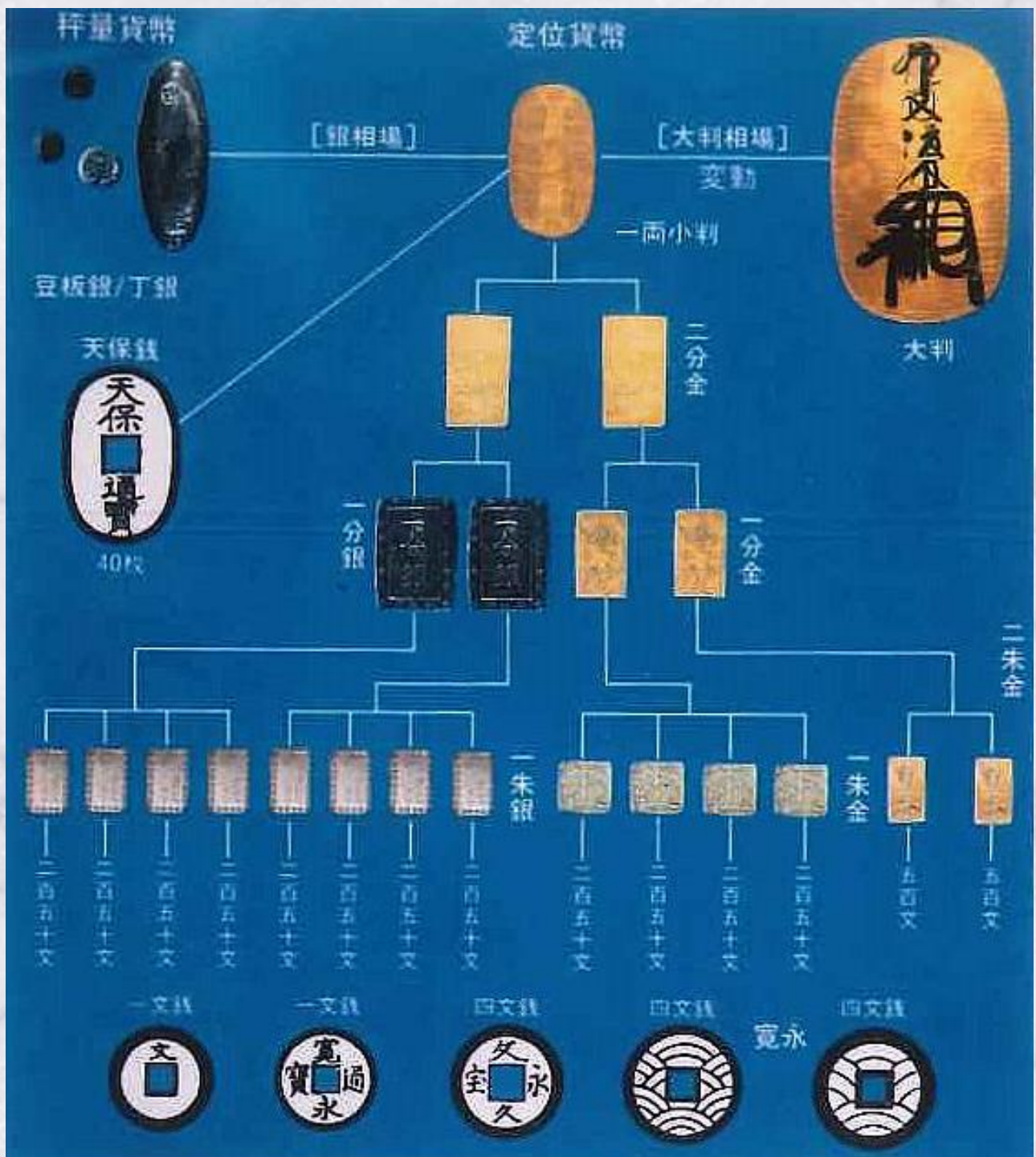
四番鍵



「OK！！開けてくれてありがとう！！・・・」

『きちんと閉めといておくれ！！』

2F の長持ちを開けるとその隅にあった。



ご先祖の皆様、これは窃盗ではございません(笑)

父、安雄様、その父、福次郎様、その父、嘉六様・・・・

「この場所に置いておいても仕方ないですよ。」

言わば宝の持ち腐れとなります。

世に出させて貰いますね！！

私が、代表し、責任もって換金し、ご使用させていただきますのでどうぞよろしくお願い致します。」

学ランの右ポケットに一掴み、左のポケットにも一掴み入れた。

2～30枚ずつ、主に一朱銀と一分金、寛永通宝を入れた。

天保銭は穴に紐をくぐらせて、100枚くらい一束になっているのがかなりあったが、重く嵩張るのでやめといた。

細かいのだけを入れ、その日の夜アパートに帰った。

そして翌日は、兄との待ち合わせずに、白銀堂に向かった。

一朱銀を一枚出してみた。

店主が小型のルーペを目に挟んでよく吟味してた。

『お客さん！！これは上物だね！・・・・・・・・』

二千円で買うよ！・・・・・・・・・・・・・・・・

一枚かい！？・・・・・・・・』

左右のポケットから5～60枚出したら・・・・・・・・

『なに！？・・・・・・・・こんなにあるの！？』

はっきりとした金額は覚えてないが、拾万円ちょっとの現金化となった。

入学金が十五万円だった時代だ。

蔵にはまだ大分あったので、三か月に一度ぐらい。通算十回程度ご利用致しました。

えびす講の時に、帰省した折、父が『なんだか少なくなっている感じだな！・・・・・・・・』と言っていた。

上の兄が不思議そうな顔をしているのが印象的だった。

「主に一朱銀や一分金を・・・・・・・・まさか・・・・・・・・？ 銀座に行って換金してる事とは知らない、また換金できることも分からない。父上様、姉様、兄様ごめんなさいです・・・・・・・・」

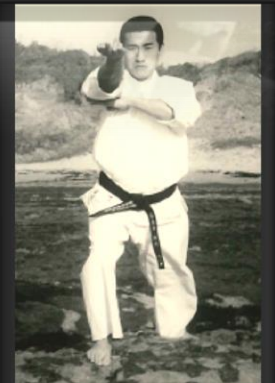
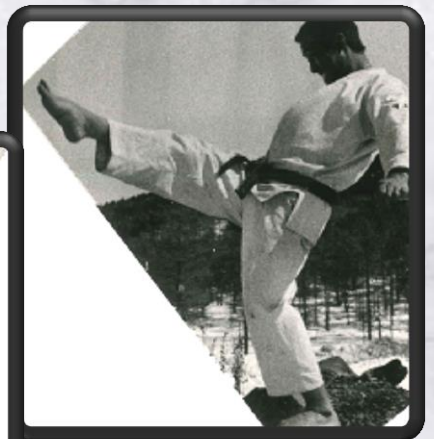
今だから語っちゃいました。

そして進級して4年生となり卒業論文というのが、五流大学の法学部にもあり、私は【書面によらない贈与はいつでも取り消す事が出来る】民法550条を課題に作成した。

原稿用紙100枚以上が条件。



夜の街での出来事や、社会勉強ばかりの学生生活で、法律の勉強を疎かにしたのは間違いない。



大学時代、強烈で鮮明に覚えている出来事を記憶を元に記してみたのは、過去の記憶を思い出せるうちに！

『思い出せなくなることが必ず来る。』

「今だから語れ、今だからまだ思い出せる」

親元離れた開放感。 注意や小言を言う人なし！ 帰る時間に制限なし！ 本来なら2年間は、鶴川校舎だからその近辺に部屋を賃借したらすべてに楽なのに、わざわざ新宿乗り換え、池袋経由自分の部屋へと通学した一年間。 距離が長ければそれだけ人と接するの多くなり、トラブルの発生率も増す。

新宿、池袋の赤いネオンや青いネオンへの好奇心。



[クリック](#)

友人も新宿歌舞伎町に部屋を借りた。

周りの皆さん夜の蝶。 学生監に指摘され教室で公表されたナベちゃん。 自由気ままに闊歩した五年間。

しかしながら思い出されるのは、事件、逮捕、事件、逮捕・・・

の事ばかり。 高齢者の仲間入りとなった現在、過去の自分を見つめたとき。

「馬鹿たれだ！」「やり過ぎだ」

大学の名を汚し、評判も落とした。示談で駆けずり回ってくれた二人の兄、示談のお金を捻出してくれた親。

（後日、兄から聞かされた話）被害者の前科6犯の男が（出たら必ず挨拶に来るように伝えてくれ・・・）と二人の兄に言ったそうさ。

『バカヤロー・・・行くわけねえだろ・・・！！』

『お礼参りにか？・・・』

若いときの記憶を公にすることで何ら私にプラスになることはない。年齢からくる体力の衰え、精神的な脆さが書き下ろしたことで、体の芯から若いときのパワーが蘇ってきて、気力も向上した。

本来なら恥ずかしい事、隠したまま墓場まで持っていく事が本筋だと思う。

しかしながら、公にしたことで、自分自身に気合が入り、さらに前向き思考になった。

両親は長らく前に他界し、上の兄は昨年亡くなった。

誰しものが老いて枯れ、消えて逝くのが人間の成り行きだ。

死はいつ訪れるか分からない。

話は飛んで、平成元年、約 27 年程前、バブル景気の先駆け。
初期の段階で誰がバブルを予測することが出来ただろうか！



J R 前橋駅北口にイトーヨーカ堂があった。現在はエキータの名称。
その北側 20M南道路に面した 300 坪、100 坪づつ 3 人の所有、上物
もそれぞれ違う 3 人の名義の不動産があった。(現コンビニがある)

当時 2~3 日おき位に東京から不動産業者が駅周辺の土地の価格と査
定、そして買収等の話で来社が多かった。

坪当たり 100 万、150 万、250 万円と嘘の様に急上昇

「今日、小切手を切ってもいいですよ！」と言ってた業者もいた。
売人からの委託によって商品化に動いた。

まずは建物の住人の立退き、土地所有者と北側隣接地所有者の土地と部分交換の交渉と地形訂正などの作業があった。

立退き料の精算、解体工事、滅失登記、測量、分筆登記と終わり、すべてが整って売却価格、坪単価を 300 万円での売却依頼で、売人 M も「国土さんに任せるんで・・・」と互いに確約した。

(当時 国土興業株式会社)

そしていよいよ買人も決まり、M 宅に出向いた。

ところが M は、何の断りの連絡もなく他に売却していた。

幾らで売ったか？聞くまでもなかった。

手間賃もお礼状すらもない男だ。

3 億円以上は入った M は、軽自動車を購入した。

謝礼金の支払いもできない御仁に、悪事とは申しませんが懲らしめとしての天罰が下ったのでしょうか？

数日後、M は国道 50 号線でダンプカーと正面衝突で、即死した。

「合掌」

話を戻します。

4 年生に入ると皆、進路に向け動き始めた。


公務員を目指すもの、教員になるべく教育実習へ準備するもの、

一般企業の説明会に行くもの等々。

「いつまでも学生をしているわけにもいかない。」

色々とそれなりに忙しく、騒がしくなってきた。

物は試しで、ダメもとと思いながら、7月上旬に松戸市に本社がある従業員350人ほどのセノー株式会社（当時は勢能体育用品（株））。

体育館に入ると用具に  このマークを目にする。Senoh

この会社の採用試験を受けてみた。

午前に一般教養試験と作文、午後に面接があり、大卒採用希望者が4～50人いた。夏休みが終わりアパートのポストを覗くとなんとなんと内定通知書が届いていた。

連帯保証人2名を付け、9月末日までに他の書類と一緒に提出してください・・・ だった。

「こんな人間でも選んでくれたんだ！！」 と正直思った。

採用試験を受けたのは1社のみだった。9月中頃に会社宛てに関係書類を送付した・・・

その後は普段の学生生活に戻り、初秋から卒業論文の作成に入った。

そしてなんとか卒業証書を頂き、表門から出られた。

卒業證書

群馬縣

榊 沢 春 雄

昭和十九年一月十五日



本大學法學部法律學科
所定の課程を修めたので
卒業證書を授與し法學士と
稱することを認める

昭和十九年三月十日

國士館大學總長

經濟學博士 柴田 梵天

第八三號

卒業できた旨を報告すべく群馬に帰り、家族に伝えた。

姉、兄はやっと卒業したか？って感じ。

父親は近くに寄ってこなかった。大概にしてくれよ・・・の心境か？

お袋だけが「おまえは、色々あったな・・・波乱万丈だったなー」

と相手にしてくれた。

以前に留置場を出た時も「出られればいいや・・・」

と身の心配をしてくれた。

《やっぱ、かあちゃん!!母ごころ!!》

「良かったね！！ 卒業出来ておめでとう！！」の言葉はどこからも聞こえてこなかった。皆さん、あきれてたんだね！？

いよいよ会社の入社式だ。

大学卒業者が8名。高校卒業者が20名くらいで、中学卒業者5名程度だった。大卒者は1年間は工事部か製造部。

2年目からは営業部に配属になる。2週間の勉強会を経て工事部に配属された。

「早速だけど樺澤君は今から福岡支店に行ってくれ！！」

飛行機のチケットを渡された。

「支店には話してあるからその住所に行くように！ 支店の工事部の人の指示に従って、4～5日の工事期間なので終わったら帰って来て。」

こんな感じだった。

工事の仕事も中学・高校・一般の体育館内の器具の部品交換などで、福岡から3人1組で大分県などを廻り、終わると一旦は松戸本社に帰った。

次は札幌支店へ行って札幌、小樽周辺を3～4日間の作業。

続いては本社の工事部のベテラン工事人と3名で2tトラックで東北地方、山形県・秋田県の4日間。

そういった感じの中うまく休みも入れてくれた。

先輩の皆さんもいい人で仕事の合間に観光したり、夜はご当地の穴場を探したりで楽しかった。

ある時には奄美大島からフェリーでの帰り、波が荒く船酔いに悩まされたこともあった。

中学校・高校の体育館に入り作業する前に職員室に行く。体育の先生に挨拶をし、修理に入る。

3校に一人くらいは国士舘出身の先生がいた。中でも九州地区が多かった様にした。

日本のあちこちに行け、工事人の方も面白く何ら問題なく1年が過ぎ様としている。

この安定している生活の中。

何か刺激が欲しい？

何か物足りない。

何か忘れ物をして来た感じがあった。

当時は仕事はまだいつでもできると思っていた位だ。

「まずその忘れ物を取りに行行って来よう！」

「仲間の皆さん、ゴメン！ 勝手ながら途中下車させて貰います。」

「勢能社長、申し訳ありません。」

入社式に「骨を埋めるつもりで頑張ってもらいたい！」と言われたのに。

「失礼致します。」

空手の道をもう少し極めてみたい一心で・・・・

東京駅 21時35分発 寝台特急博多行きに飛び乗った。

博多駅 7時着。

博多駅から乗り換え、黒崎駅に着く。喫茶店で時間調整し、9時に

インターナショナル空手古武道連盟養秀會総本部山元 ^{やまもと} ^{まもる} 守（勝王）

北九州市八幡西区皇后崎についた。

総帥・・・「樺澤、本当に来たのか？」

（押忍!! よろしくお願い致します。）

「内弟子は今までとったことはないからな！初めてだよ！」

山元守総帥は全日本空手道選手権大会に何度か優勝し、カナダ・モントリオール。アメリカ・アラバマ州などに支部を幾つも構え、

極真空手の大山倍達総裁が・・・

「私が空手家として認めるのは、君、山元君だけだよ。」

と聞かされた。(代々木体育館近くのホテルにて、芦原英幸氏もいた。)

第2回全日本極真空手道選手権大会の

審判長が山元守だった。



オオヤマ
倍達
マスタツ



ヤマモト
山元
守

『大会の中、後方より聞こえてきた会話』

「やっぱり！すごいな～～大山バイタツは！！」

(うう！・・・どこ・・・どこ・・・)

「ほら、あの長髪の・・・大きいの・・・」

(あれは！ヤマゲン！ヤマゲンだよ！！ 大山は・・・隣のハゲ！)

「そうかつ・・・」

週の内3日は本部で、昼は自主トレーニングと夕方からは稽古と指導。

週1回は中間支部、直方支部、飯塚支部や加賀支部長の熊本支部へよく出かけた。

加賀支部長には大変にお世話になり、

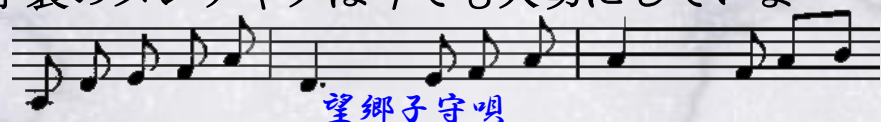
「樺澤君。九州に残ればよかろうもん・・・!! のこればよかるとに・・・？」

とってくれた。

加賀先輩は、第2回全日本極真空手道選手権大会に他団体からの出場場で小兵ながらも、持ち前のガッツで勝ち残り、準決勝戦で敗退した。



加賀支部長から頂いたお手製のヌンチャクは今でも大切にしています。(43年間)



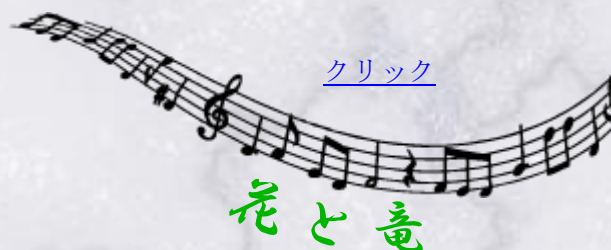
望郷子守唄

[クリック](#)

空手の稽古と総帥の夜の街からのお迎えやらと。

稽古の中では右のあばら骨を折られた事、また折った事もあった。

九州男児。骨のある奴が多かった。しかも筑豊、若松、遠賀地区のど真ん中、粗っぽかった。そんなこんなで1年が経過した。



[クリック](#)

花と竜

そして何の宛もなく渡米する事を決断した。

人に頼らず行くなら、富豪の州、富裕層の地、フロリダを選んだ。

野望であり冒険だった。

まずは、パスポートを取得する為、群馬県庁へ出掛けた。

「アメリカの何処へ、どのくらいの期間行きますか？」

《フロリダ州のタンパへ一年間》と返した。

「タンパ？」

《タンパを知らないのか？よくやってるな!!》

「それでは、一年間だと360万円以上の預金



通帳と身元引受人の証明書を持参して下さい。其がないとパスポートの発行はされません。」ときた。

啞然…啞然から呆然。困った!! ハードルが高い。

パスポートの発行に必要な条件が揃わない。考えたって仕方ない!

夢。打ち砕かれる。

このときはショックだった。

どうするか～？

他に何かあるんだ～

以前に部屋を何度か移転した折、不動産屋に必ず支払った手数料・・・

《不動産屋か!!?》 《宅建資格だ!!》

《宅建しかない!!》と目標を定めた。

【試験日まで180日！】

10冊ぐらい関連本を購入した。一ヶ月位は計画を練りどの章を重点に進めて行くか、全体の感じをつかんだ。毎日は学習しなかった。

あと、100日に迫った頃から真剣に取り組んだ!!

同期達からは遅れを取ってる。何かしないと。焦りがあった。

もう！あとがなかった!!

宅建試験に1回で合格できないときは

「適格者ではなく、業を興しても資質や器量に乏しく、
まだ基準に足らず。」

と判断されたと解釈する。

2度目の挑戦は無い。

実際のところ頭の片隅に.....

トラックを転がす姿が浮かんだこともあった。
(トラック運転手)

結果次第で、不動産業は見限ると決めていた!!

学習中での問題点は睡魔だった。今までの中で一番勉強した。

1章と6章以外はトコトンやった。これでおちたら本望だ!!

眠気覚ましに「画ビョウ」をモモに刺したりもした。練習問題も

40問中30問は出来る様になった。時間も1時間半で充分だ。

1年早く卒業して証券マンで活躍している江原ちゃんも挑戦することとなった。

江原曰く「宅建の試験って〇×だろう！知識と判断力は自信があるし常識問題だろう！」と言っていた。

江原ちゃん Memory

入学し、困惑したのが体育学部でないのに柔道か、剣道を、1年生か2年生で1年間、又は3年生か4年生のどちらかで合気道を1年間、履修することを必須とする。

1年生で剣道を選んだ。剣道場で授業が始って、隣に背の高いのがいた。

「どこから来たん!?!」『群馬!』「群馬?のどこ!?!」『高崎!』

この会話の出逢いから始まり現在まで50年の仲が継続している江原ちゃん。

私は、剣道は1回の出席で辞めた。4年生時、合気道を選択した。

江原はクラブに入っていなかったが、なぜかウマが合い、「何かした方がいいよ」で下北沢にあったボクシングの金子ジムの門を叩き、通っていた。代々木上原駅歩2分の3年生。江原は千歳船橋駅歩3分の4年生、初秋の頃突然部屋を訪ねてみた。ドアを開けると机に

向かって勉強していた!!

『何?、勉強してるん?』と発声。

今思えば当たり前、当然のことだったがその時自分がそうでないから不思議に思っていた。

2年生の秋の逮捕の時、机、ベッド、テレビ、その他小物類は上の兄の友達が親元へ運んでくれた。その兄の友人は都内の道に詳しく、入学金の納入時も運転同行をしてくれ、正門に横付けした。

しかしながらその人は30代前半で病気で亡くなってしまった。

悪い奴ほどよく眠る。良い人の死は早かった。

復学した時から布団1組だけで机もベッドもテレビもなかった。

いつまた迷惑をかけるやも知れぬため。

ステレオだけは横幅が180センチ（セパレーツ型）、

奥行き60センチ、トリオの立派な代物を購入した。



[クリック](#)

上で寝れるぐらいだった。大学に行く前には高瀬先輩に習い、軍艦マーチを大音量で聴き、気合を入れた。右隣の部屋のカップルは、1か月ほどで部屋を出払った。2、3人で新宿に出かける道のり、下北沢駅で江原ちゃんは誰にも告げずに、途中下車した。間違いなく喧嘩が起こることを察し、機転を効かせた。

その機転と^{ズル}狡さと、良い意味での調子よさがないと証券マンとして生きられない。

今でも変わらず、調子はよし！

自分の生き方だからそれでよし！

宅建の話に戻りますが、

10月に入った頃には試験日が、待ち遠しかった…。

-
-
-
-

【43年ぶりに宅建資格試験問題を拝見した。】

1044条よりなる民法からの出題は……………

『問題も出尽くしたと言われる中。作成する側は過去の問題や参考文献を研究し、過去に出題されてない事柄と絡ませ、アレンジして作られているのが伺える。

現実離れした問題もあるような気がした。問題作成の考え方が幾分マニアック感覚になっている傾向にあると思えた。』

北海道は網走の隣、紋別から来てた和田ちゃん。

住まいは和泉多摩川駅近くの八百屋さんの二階のアパートだったね。

夕方になると、下の店で手伝う姿目に浮かぶよ。

暗算が得意でお客さんから「あってるの～」なんて言われてたね！

珠算初段だったね。紋別市役所へ入るとかって？

定年退職し、年金暮らし！

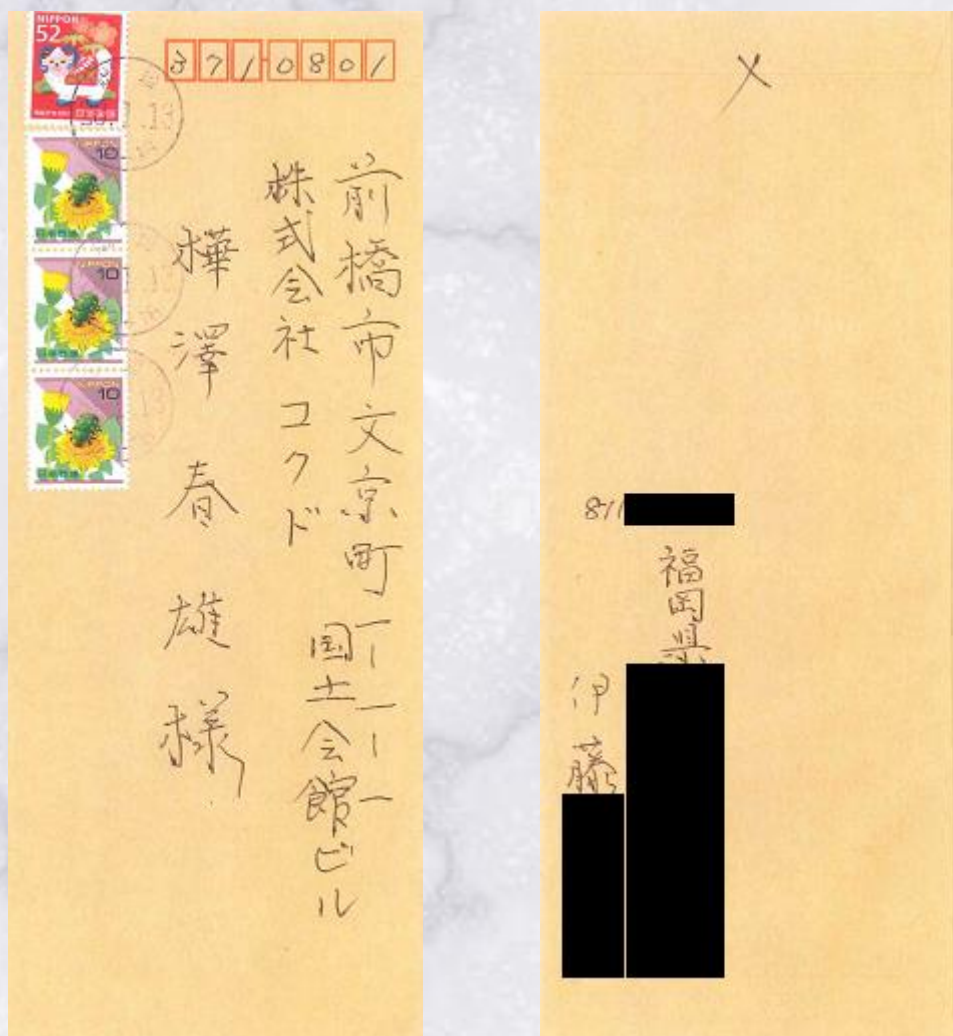
オホーツクの流氷が年々

少なくなっているようですね。



九州は福岡の伊藤ちゃん、あなたのご立派です。在学中も学部は違ったけれど、部活動では主将をきっちり務めましたね！去年の電話と手紙で卒業からの経歴を聞き驚きました。感心しました。

『伊藤君からの手紙』



寒中お見舞い申し上げます。

ご丁寧なお年始状をいただき、有難うございます。

喪中につき年頭のあいさつを控えさせていただきます。

先日は電話をいただき、懐かしく話をすることができました。熱海の同窓会のことを思い出しました。同窓や後輩の皆さんが就職し、頑張っていることや自分で起業

して立派に成功している話を聞いて、流石根性と忍耐を兼ね備えた野武士と、感心した次第です。

また、皆さんのことを教え子達に「人間は学力だけでなく、根性・忍耐・礼節を大切にすることが自分の人生を切り開くことが出来る」とよく話していたことを思い出しました。

昨日、国土會と息子さんのタイトル戦のDVDを送っていただき、ありがとうございます。流石蛙の子は蛙ですね。立派な息子さんを持って幸せですね。学生時代のあなたにそっくりですね。特にヘアスタイルは良く覚えていますよ。

ネットで国土會のページも閲覧しました。不動産業・ムエタイのジム・不登校対応の塾等々の経営にびっくりしました。現在に至るまでは艱難辛苦の連続ではなかったかと思います。立派に成功したのは貴殿の根性に他ならないと思います。

当方は校長職を退職し教育委員会に三年勤め、今は細々と年金生活の日々を過ごしています。

当方上京の折は、再会したいものです。

貴社の益々のご繁栄と息子さんの活躍、そしてご家族のご多幸を祈念しています。

最後に、お互い健康には十分気をつけましょう！！

県立高校の校長職を経て教育委員会 3 年。現在は年金生活との事、
人生の見本だね！！



不動産業を開業するにあたり、まずは「場所の確保。」「箱（事務所）。」
「机」「固定電話」「車」が必要となる。

（運転免許と宅建士免許は基本。）

前橋駅前ケヤキ通りに面した 4.5 m²(1.3 坪)。間口 1.5m。奥行き 3 m。

タバコ屋さんの隅っこ、所有者に懇願すること 7~8 回。

緑ヶ丘の自宅に夜訪 5~6 回。

「誰が来ても貸さないよ・・・！」「何度も、何回も来るんだね・・・？」

と言ってた。

所有者が、燃料を入れている GS の所長に・・・「今、富士見の樺澤という人が、店の一角を借りに来ているんだけど・・・？」

所長・・・「小林さん、あそこの家の人なら大丈夫ですよ・・・！」と太鼓判を押してくれた。

角田所長、ありがとう。

角田所長と上の姉がたまたま同級生でよく知っていた。

やっとの思いで借りられた。

机一台。椅子 2 脚でいっぱいのスペースだ。

コピー機は壁を利用し、木で工面した台を作り、上に乗せ設置した。

ごくせま
「極狭事務所での出発だった。」

運転資金 0 円。

25 歳の小僧(若僧)の人脈なんてたかが知れてる。そして、起業することを親戚筋 50 人位に挨拶状として送付した。

誰一人として・・・「頑張れ・・・！」の一言もなかった。

仕方ないな～と実感した。 『若いし、過去が過去だけになあ～』

聞こえてきたのは・・・

どこからともなく・・・風の便りに・・・？

「あんなのが始めて見たって・・・すぐに潰れるよ・・・！」だった。

『すぐに潰れる～を頂きました。』

『よっしゃ～。よっしゃ～。』反骨精神！！勃発！！・・・

すぐ潰れるーすぐ潰れるー を頂いてから間もなくで45年目を
迎えま～す！

「すぐ潰れる」「すぐ潰れる」をいつも念頭に置き、激励のお言葉と
して考え、やって来ました。

たしか・・・？ お袋の弟の広平さんだったね！！

感謝ですよ！！

業を始めて間もない・・・27歳の頃・・・

「今でも忘れられない取引があった。」

『今だから実名！！』

地元のスーパー松清（現・フレッセイ）に不動産部があった。

担当の三森さんから「樺澤君・・・青柳に70坪(231㎡)、坪8万円
であるよ・・・！！」

前橋駅より北へ8km、車で10分位に位置する東南角地の静かな住宅
用地・・・「坪12万円で売却できると判断した。」

買い付けの申し出をし、かき集めた60万円を手付金として支払った。

残金支払いは、2 か月後に支払う契約・・・

足利銀行・前橋支店に融資の相談と申し込みに行った。

融資係・大竹氏に根掘り葉掘り聞かれた^あ挙げ^く句に

「手付金を入れちゃったんですか・・・？」と言われながら

「融資は無理ですね・・・！」と断られた。

物件を売るべく右往左往している中・・・

「支払日が迫ってきた。」

藤田ビジネスプロモーターの秋谷さんが早朝に自宅に来た。

「青柳の物件は、まだあるんですか・・・？」

以前にその土地の売却の話をしたことがあるので、その確認だった。

そして決められた支払日がついに来た・・・

「樺澤君・・・どうした・・・これだと・・・手付金流れだね・・・！！」

(実は、お客さんがいるんですが、決済するお金が揃わない。・・・)

「う～ん。・・・樺澤君、客が居るんだったら登記に必要な書類

(権利書・登記委任状・印鑑証明)を信用して貸すから、お金を揃え

て来て貰えばいいよ。・・・」と必要書類一式を貸してくれた・・・

大手物産(株)に坪当 10 万円で売り渡す、一括支払いの契約を

結んだ・・・！！

若僧となめられ・・・足元見られたか・・・？ 小切手の支払いだ。

通常・・・不動産取引は「現金取引！！」

しかも「線引小切手」・・・と引き換えに必要な書類を渡した。

富士銀行・前橋支店(現・みずほ銀行)振出し・・・！

いくら、横線小切手でも、3日もあればと思い、確認するも換金になってない・・・！

富士銀行の窓口の対応・・・「もう・・・少し・・・時間をください！！」

小切手のツラが良くても・・・。当座預金が残高不足なのに、

小切手を振出す。・・・いい加減さ。・・・

「横線不渡り小切手！！」

松清の不動産部に事情説明をした。

三森さんには、申し訳ないが、登記必要書類を渡した以上、

待つて貰うしかなかった。

7日後に現金化になり、残金を納めた。

大騒ぎしての取引も大して儲からなかった。

お百度参りし、やっとの思いで駅前通りに事務所を出したのは、日

銭を見込んでの事。

春先の季節から初夏位迄は、毎日のように賃貸契約はあった。

自慢にならないが、1日に7つの契約をしたこともあり、昼飯も抜きで、車の中で契約書の作成もした。

アタッシュケースに契約書、印鑑、領収書の3点セットを入れ、複写の契約書で作成すればOKだった。

ある時期には、駅周辺、表町、本町、三河町の喫茶店、千代田町のスナックの居抜きの権利譲渡がかなり動いた。

店舗内の造作と物品を含む、居抜き権利譲渡契約書と賃貸借契約書の2種類を作成する。

これが面白いように決まった。買取りも登記手続きもいらない。

『利益が大きかった。』

日銭を稼ぐ事を毎日心掛け、形振りかまわず動いた。人様所有のアパート・マンション・貸家にお客を斡旋し、収入を得る、賃貸業の仕事を7~8年やってきた。極狭事務所なりふに4年間、もう少し駅に近く、やや広い事務所1F・21㎡(6.5坪)、2F・21㎡(6.5坪)に4年間お世話になった。

他人所有の不動産に絡んで利益に繋げる。他人のふんどしをお借りし利益を得る。始めて2~3年のある時期、大袈裟でなくお客さんが並んで待ってたこともあり、独占企業の様だった・・・

この用語・・・独占企業はお客さんから出た言葉。

『まるで独占企業だね！！』

今でも休みなく賃貸業をしている業者もいるが、致し方ない。先ずは収入を得ないとだから。コバンザメ商法、ぶらさがり商法に類する仕事は誰だって遣りたくない！！

昨今では、土地建物売買が希薄になり、賃貸業に移行し始めた者もいる・・・ 時節柄、賃貸業者も増えた。何かしないと収入源がない。大手賃貸業者も進出してきている。

35歳位で賃貸業を辞めた理由の一つに、人それぞれだが、人様の賃貸物を競走してまで紹介する元氣もなくなった。

『人様のものは、人様。』 自分の性分には合っていない。

[損な性分。]なのも事実です。

◎おこぼれ頂戴商法 ◎お恵み商法 ◎コジキ商法・・・よ！！

サヨナラ・・・

新社屋ビルの完成に伴い、会社も移転した。不動産の新事業が忙しくなり、賃貸斡旋業に終止符を打った。

卒業してからも10年位の間、進級と卒業出来ない夢。

背後から日本刀を持った男に切りつけられる夢を見て、

『はっ！・・・』と飛び起き、「あぁっ、夢か！」と起こされた場面が何度もあった。

これからどれだけ、残りの時間を有意義に過ごすか！

その【時間つぶし】が人生だから。

死んでから【ゆっくり寝よう！】

【風邪ひこう！】をモットーに生きる。

青春時代に悔い無し、忘れ物無し！！

吾が人生にバックギア無し！！

～次へつづく～

付録です。クリックしてね。

現在の
国土館大学

